# 撰時抄

## 御文①

御書新版……164ページ 4行目～7行目
御書全集……258ページ 14行目～17行目

彼の大集経の白法隠没の時は、第五の五百歳、当世なることは疑いなし。ただし、彼の白法隠没の次には、法華経の肝心たる南無妙法蓮華経の大白法の、一閻浮提の内八万の国あり、その国々に八万の王あり、王々ごとに臣下ならびに万民までも、今日本国に弥陀称名を四衆の口々に唱うるがごとく広宣流布せさせ給うべきなり。

## 現代語訳①

前述の大集経に説く白法隠没の時は第五の五百年であり、今の時代であることは疑いない。ただし、その白法隠没の次には、法華経の肝心である南無妙法蓮華経という大白法が広宣流布するのである。全世界の内に八万の国があり、それらの国々に八万の王がおり、これらの王それぞれの臣下および一般民衆までもが、今日本国で出家・在家の男女のすべてが南無阿弥陀仏と口々に唱えているように南無妙法蓮華経と唱えるのである。

# 御文②

御書新版……165ページ1行目～8行目
御書全集……259ページ6行目～12行目

文の心は、第五の五百歳の時、悪鬼の身に入る大僧等、国中に充満せん。その時に智人一人出現せん。彼の悪鬼の入る大僧等、時の王臣・万民等を語らって悪口・罵詈、杖木・瓦礫、流罪・死罪に行わん時、釈迦・多宝・十方の諸仏、地涌の大菩薩らに仰せつけば、大菩薩は梵帝・日月・四天等に申しくだされ、その時、天変地夭盛んなるべし。国主等そのいさめを用いずば、隣国におおせつけて彼々の国々の悪王・悪比丘等をせめらるるならば、前代未聞の大闘諍、一閻浮提に起こるべし。その時、日月の照らすところの四天下の一切衆生、あるいは国をおしみ、あるいは身をおしむゆえに、一切の仏菩薩にいのりをかくともしるしなくば、彼のにくみつる一りの小僧を信じて、無量の大僧等・八万の大王等・一切の万民、皆、頭を地につけ掌を合わせて、一同に南無妙法蓮華経ととなうべし。

# 現代語訳②

これらの経文の趣旨は、次のようなものである。すなわち、第五の五百年の時、悪鬼がその身に入った大僧らが国中に充満するだろう。その時に智慧のある人が一人出現するだろう。

先に述べた、悪鬼が身に入った大僧らが、その時の国王や臣下・民衆たちを仲間に誘い入れ、その智慧のある人に対して悪口を言い罵り、木の棒で打ち、石を投げつけ、流罪・死罪に処するだろう。その時に釈迦・多宝・十方の世界の仏たちが地涌の大菩薩にご命令になり、大菩薩はまた梵天・帝釈・日月・四天王などへ命令を下され、その時、天変地異が盛んになるだろう。

国主らが、天変地異によって示されたその警告を取り上げないなら、諸天（神々）が隣の国にご命令になり、今述べたような国々の悪王・悪僧らを責められる。もしそうなれば、これまでにない大きな戦乱がこの世界に起こるだろう。

その時に、日と月が照らす地球上のすべての衆生は、国を守ろうとしたり、わが身を守ろうとしたりして、そのためにすべての仏・菩薩にお祈りするが、まったくその効果がないということになれば、先に述べた、かつて憎んだ一介の僧を信じて、無数の大僧ら、八万の大王たち、すべての民衆は、誰もが頭を地につけ、合掌して一様に南無妙法蓮華経と唱えるだろう。